

Attachment Development Support



アタッチメント発達支援
アドバイザー養成講座



アタッチメント発達支援 アドバイザー養成講座



講座概要

最近、皆さんの講座の受講動機の中で、こんな言葉を目にすることが多くなっています。受講動機だけでなく、全国大会などで直接お会いした時にも、こうした声を耳にすることは、少なくありません。

「最近、発達障害かな？と思われる子が増えています」

「発達が気になる子どもたちへの発達支援として、何かしてあげたい」

「問題行動に対して、お母さんへの伝え方が難しい」

現場の感覚だけでなく、実際に増えている発達障害

実際、発達障害や発達が気にかかるお子さんは、厚生労働省の統計によると、知的障害児だけをとり、その人数は2000年から10年で2倍に増えており、冒頭にご紹介した現場の感覚を、一面で裏付けています。実際、皆様の中にも、「この子、発達が気になるな」と感じるお子さんが、何人か浮かぶ方もいらっしゃるかもしれません。

発達障害は、その程度によって、名前(障害の名前)が付いたり、付かなかったり、また、知的障害のあるなしでも、印象は大きく違います。そして最近では、発達障害を危惧するお母さんも、増えています。昔なら、その子の特徴として受け入れられていたことも、発達障害という名前が付くことで、お母さんの悩みや心配の種になっています。

ところで、こうした発達障害や発達凸凹について、われわれは、どれ程の知識があるでしょうか？知っているようで、意外と知らない、概略は知っているけれど、詳しく聞かれるとちょっと困ってしまう、という方も多いのではないのでしょうか。

発達障害、発達支援について、体系的に学んでみませんか

この講座では、発達障害や発達支援についての基礎知識と共に、子育て支援の現場で、日常的に接する「ちょっと発達が気にかかる子」や「発達が凸凹している子」あるいは「知的障害のない発達障害の子」たちの特徴を知り、健常児とは少し違うその接し方を学び、そ

してその子たちの発達を支援するような関わり方をする、あるいは、お母さんにそれを指導するための知識とスキルを学びます。

冒頭でお伝えしたとおり、「発達障害」という言葉は、この10年で急速に浸透しました。それと同時に、その解釈や発達支援についての考え方、アプローチも、ずいぶん変わってきています。そんな中で、発達支援の取り組みにおいて、3～6歳のアプローチが、非常に重要であることは、どうやら間違いなさそうです。中でも、アタッチメントのアプローチは、発達支援において、かなり期待できることがわかってきています。

つまり、われわれが子育ての軸に置いている「アタッチメントの営み」は、発達障害や発達凸凹の子どもの発達支援において、とても有効であり、発達支援の取り組みにおいて根本的な効果を挙げているものの多くは、アタッチメントで説明できます。そうした背景から、アタッチメントの立場から発達支援に取り組む必然性を、私自身も実感しています。

発達支援は、アタッチメントの営み、だから発達障害児だけじゃない、健常児にも大いに有効

こうした発達支援における「アプローチ」は、決して特殊なことではありません。健常児に対するコミュニケーションを、より丁寧に、細かく細分化したものです。丁寧できめ細かい対応ですので、発達障害児だけでなく、グレーゾーンのちょっと気になる子や、あるいは健常児にとっても、発達を促し自己肯定感を豊かに育てることにつながります。そのような、われわれが、日常の保育や子育て支援の現場で、子どもたちにしてあげられるこ

とや、お母さんに教えて、家でも実践してもらえるような取り組みやアプローチを扱うのが「アタッチメント発達支援」です。各アプローチは、発達障害児だけのものではありません。すべての子どもの発達にとって有効です。健常児も発達障害児も、苦手があって、得意があって、優性があって、劣性があることは変わりません。「アタッチメント発達支援」は、得意や優性をより伸ばし、苦手や劣性を軽減します。つまり、特定の子どもに対する、特別な営みではなく、すべての子どもの発達にとって、良い影響をもたらすものです。

育児セラピストだからこそできる、身近な「発達支援」の試み

だからこそ、この「アタッチメント発達支援」を提供するのに、もっとも適しているのは、われわれ「育児セラピスト」だと、私は考えています。もちろん、発達が気にかかる子のために、療育センターや発達支援センターといった専門の支援機関があります。しかし、そうした専門機関は、ハードルが高かったり、発達障害の診断を受けた子どもが対象であったり、あるいは、定員が一杯であったりして、多くの親子にとって、縁遠いのが現状です。名前が付くまでではないけど、少し発達が気になる、健常だけど多少の問題行動がある、というケースが、実際には圧倒的に多いのです。そうした方たちの行き場がない現状で、誰もが、身近に、手軽に、適切な発達支援が受けられることが、いま現場でもっとも求められていることの一つなのです。

私が、皆さん「育児セラピスト」に、この「発達支援」を託したい理由は、まさにここに 있습니다。身近な保育の現場や子育て支援において、手軽に「アタッチメント発達支援」が受けられることは、非常に大きな意味があります。

アタッチメントのさらなる可能性の扉を一緒に開けましょう！

子どもの発達を、身近で支え、指導する発達支援の役割は、これからの10年で、今以上に必要とされるようになります。だからこそ、本音を言えば、私は、すべての育児セラピストに、この「アタッチメント発達支援」を学んでほしいと思っています。

発達障害は、いまや、珍しいことではなく、身近なものになってきています。保育者や親が、適切な知識に基づいて、大きな愛情をかけてあげれば、それは、障害ではなく、肯定的な特徴として活かしてあげられます。得意を才能として開花させ、苦手を社会生活で困らない程度に軽減させることが出来ます。

そのためには、治療者ではなく、子育ての延長線上で、発達支援を導いてあげられる伴走者の存在が重要です。それが、「アタッチメント発達支援 アドバイザー」です。



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

代表理事 廣島大三



講座カリキュラム

理論編

【発達支援アドバイザー概論】

- アタッチメント理論・基礎
 - 発達心理学・基礎
 - 発達支援とアタッチメントの可能性
 - 発達障害
 - 発達が気にかかる子ども
 - 感覚統合
- 育児セラピスト前期課程(2級)カリキュラム

実践編

【発達支援メソッド・アタッチメント トリートメント】

- 発達支援のための基本3スキルへのアプローチ
 - ・衝動制御スキル
 - ・語用スキル
 - ・同時総合スキル
- 自閉症ウィングの三つ組へのアプローチ
 - ・社会性
 - ・コミュニケーション
 - ・イメージネーション



育児セラピスト前期課程(2級)を同時修了できます

本講座カリキュラムは、『育児と発達分野における専門家』として、広く活動するための資格である育児セラピストの基礎資格である「育児セラピスト前期課程(2級)」のカリキュラムが含まれているため、本講座の受講によって、育児セラピスト前期課程(2級)を同時に修了できるのも大きな特徴の一つです。

保育士・保育教諭など保育関係者**● 受講の動機**

近年、グレーゾーンや発達障害、愛着障害と思われる子どもが多くなったと感じます。そうした子どもにどう関わったら良いのか、その親には、どう接すれば良いのか悩んでいました。また、発達障害について、きちんとした知識や理解がないままに、そうしたお子さんの保育を受け持つ良いのか不安でした。

**● 現場での活用**

発達障害についての体系的な理解が出来たこと、保育者にも、現場で出来ることがたくさんあることが分かったことで、子どもと接する不安が軽くなりました。発達障害と一口に言っても、個々でみんな違いますが、この講座では、そうした子どもと接するための「基本的な方針」を学び、それに合わせた具体的なアクティビティや取り組みを習ったため、その子に合わせた発達を補う活動を保育の中に取り入れています。

これまで、発達障害が疑われる子に対しても、保護者に対しても、診断してもらう事が大切と考えていました。しかし、健常児も含めて程度や症状はひとり一人が違い境界線もあいまいだという話を聞き、今は、診断してもらう事よりも一人ひとりに合った課題を見つけ、ケアしていく事を重視して、毎日の保育に取り組んでいます。確かに健常児や自分自身の中にも発達障害にあるような要素や傾向があると思います。発達障害は治す・直すものではなく、特性として理解し認めていくという事を職場でも伝えていけたらいいと思っています。

看護師など病院関係者**● 受講の動機**

職場でグレーゾーンの子どものと接することは多いです。乳幼児の健診からはじめて来院し、何度か受診していると、早い段階から気になることもあります。そうした対応の難しさを感じるお子さんにも、発達の手助けをしてあげられるような対応が出来たらと考えています。

**● 現場での活用**

これまで、発達障害の子どもの特徴を知らなかったために、上手く対応できずパニックにさせてしまったりしたことがありましたが、いくつかの注意点を知っておくだけで、そうした場面は減らせることがわかりました。それだけでなく、次に来院した時には、その子の年齢や発達の特徴に応じた対応を予習しておけば、その子とも、お母さんとも、より積極的な関わりを持ち関係性を深めることができます。

これからは、産科や小児科の看護師にとって、こうした発達障害に関する知識は、ますます必要になってくると感じています。

児童館職員、児童厚生員、障害児相談支援専門員**● 受講の動機**

発達支援に関わっているものの、言葉だけがとび込んできて、うまく説明できないし、どんな関わりをしていけば良いか分からないこともありました。

また、発達障害という難しくデリケートな事柄についてどの様に学んだら良いか悩んでいる中で、アタッチメント理論に基づいた発達支援の方法を習得したいと考えました。

**● 現場での活用**

子どもは、それぞれに苦手なことが違うので、その対応の仕方を理論立てて、知識として得ることが出来ました。また、発達障害を切りわけする必要はなく、(丁寧さは必要だが)健常児の育児そのものでいいことが分かり、支援に自信が湧きました。今までは障害をもった子やその親へは、一歩引いた関わりをしていたところもありますが、同じ土俵にたつて、障害のあるなしに関わらず、支援者としてアドバイスができそうです。



もっと早くにこの講座を受講できていれば親へのアプローチが違ったと思います

今まで多くの発達障害の子どもたちと出会い保育してきました。様々な親対応にも悩まされてきましたが、もっと早くにこの講座を受講できていれば親へのアプローチが違ったと思います。子どもにはアプローチして関わりを持っていても、親にまでゆっくり時間を取れなかったからです。小さい頃からしっかりとアタッチメント形成をしていくことは、子どもにとっても親にとっても悪いことは全くなく、よりスムーズに過ごしていけることをこれから伝えていきたいと思いました。ありがとうございました。

大学職員 40代(大阪府)

親への支援も学べて良かったです

言語障害で話せない子が多い園で勤務しており、子どもたちの反応を確認しながら保育を進めていっているが、反応のある子、ない子がいて設定保育の難しさをいつも痛感しています。親子通園で、親の子どもへの接し方が気になる事も何度かあったので、今回親への支援も学べて良かったです。最近では、子どもへの寄り添いはもちろん大事ですが、もしかしたら、それ以上に親への寄り添いが大事ではないかと思い始めていました。親同士が話せる時間を少し作り、色々情報交換したり、気持ちを共感、共有できる場の提供もしていきたいと思います。

保育士 50代(沖縄県)

「障害」ではなく「個性」と捉える

仕事柄、発達障害がありそう(又はある)子とそうでない子に対し、別々で考えがちでしたが、今回の講座を受け、大きな差はなく、それぞれの個性と考えればよいと思えました。「障害」と考えれば子ども・親への支援・アプローチは難しくなり悩んでしまいますが、「個性」と捉えればこちらの支援も、そして親の受けとめも、気持ちが軽くなり、それはその子にとってもとても良い状況になると思いました。先生たちも、手がかかる子と問題児扱いし、敬遠しがちですが、その関わり姿勢、子どもの様子の捉え方を改めるよう指導していきたいと思います。

小規模事業保育園 園長 40代(大阪府)

バラバラだった知識や概念が一本化

「発達障害」について深く学び出して2年くらい経過しましたが、今までバラバラだった知識や概念が一本化できて、理解に苦しんでいた部分も腑に落ちました。仕事上、発達障害と愛着障害の最悪のパターンとなった人達を見てきたので、今日多角的に理解を深めることができ本当に勉強になりました。「アタッチメントの段階に飛び級はない。行き詰まったら戻る!」という考え方は、目からウロコでした。まさに、飛び級を求めていた私でした。家に帰ったら、子どもを膝に抱いてアタッチメントトリートメントを実践していきます。本当にありがとうございました。

国家公務員 30代(三重県)

新たな知識や、アタッチメントの素晴らしさ、楽しさを再認識できました

私自身、発達障害を持つ子どもたちと出会い、いろいろな学びや気づきをもって、保育の仕事へのモチベーションや情熱がよみがえってきました。なので、発達障害について理解したい、学びたいという気持ちや欲求がつきません。講座では、アタッチメントを中心にその観点からの発達障害についての学びや支援、アドバイスの方法をしっかり学べて、新たな知識や、アタッチメントの素晴らしさ、楽しさを再認識できました。子どもさんだけでなく、子育てを頑張っているお母さん、お父さんたちの支援をしっかりしていきたいと思いました。

保育士 40代(広島県)

今まで受けてきた発達障害関係の研修とは切り口が全く違って、支援の場で役に立つと思います

受講自体をかなり迷っていましたが、受講して良かったと思います。発達を促す方法はどの児に対しても同じということに確信をもつことができました。その上で発達障害の特性をもつ児に特に配慮すべきこともわかり、大変役立ちました。今まで受けてきた発達障害関係の研修とは切り口が全く違って、支援の場で役に立つと思います。

保健師・看護師 50代(大阪府)

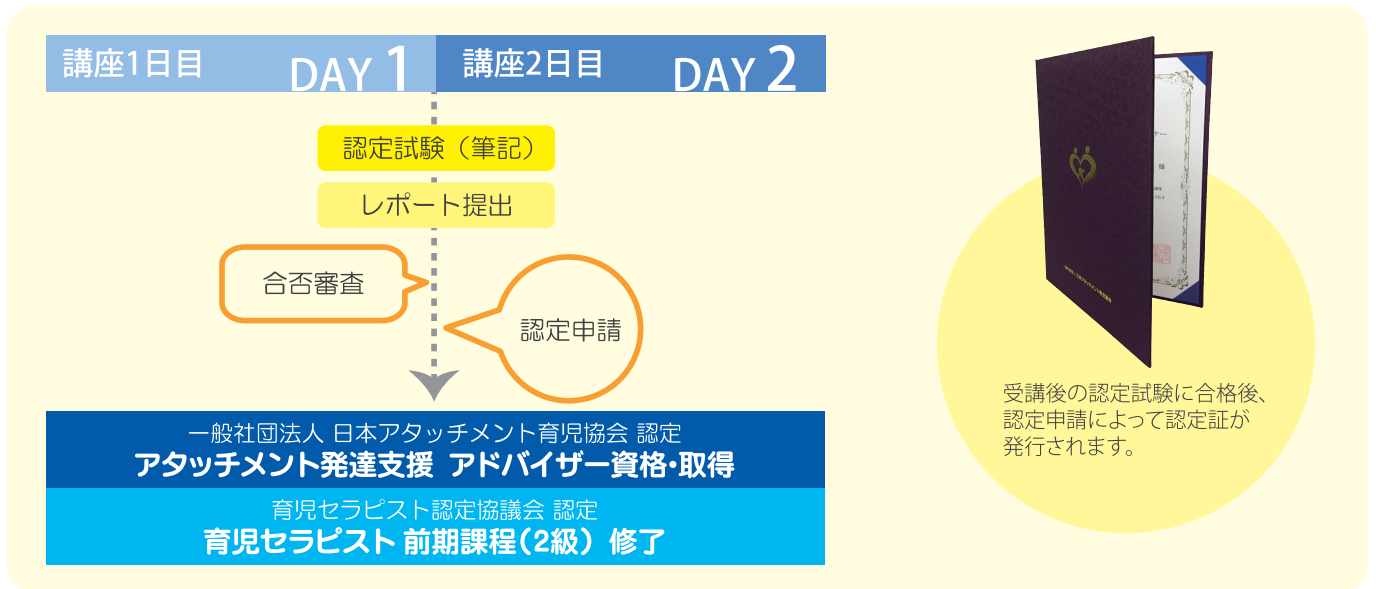
子どもを中心において、何を大切にしていけるかを日々伝えていきたいと思いました

園の研修などで、発達障害については、1年に何回かあり、参加させてもらうことがあるが、研修では、「どんな障害の子はこのような特性」など、症状をみるものが多く、その関わり方や、保護者へのアプローチについては、早期に療育を開始するために、早期の小児精神科の受診を進めるといった内容が多く、それでは現場で、そのような親子にどのようなアプローチをしていけばよいのか、といったことはないことが殆どであった。現場では若い保育者は「指示が守れない子」「言うことを聞けない子」と子どもを怒ったりする場面も集団に入れば多くなり、母親でなくとも余裕がない保育者は対応できず、子どもを追い込んでいくところもあると、改めて感じました。日々の生活の中で、今日の講座を生かし、子どもを中心において、何を大切にしていけるかを日々伝えていきたいと思いました。

保育教諭 40代(岡山県)



資格取得フロー



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会 監修・認定
アタッチメント発達支援 アドバイザー養成講座

<https://www.naik.jp>



お問い合わせ



一般社団法人
日本アタッチメント育児協会

TEL : 052-265-6526 Email : info@naik.jp

〒456-0002 愛知県名古屋市中熱田区金山町1丁目13-14 アールワン金山3F FAX : 052-265-6529